

2019年6月3日

人を対象とする医学系研究に関する情報の公開について

当センターでは、下記の研究を実施しております。この研究は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて、研究対象者となられる方から同意をいただくことに代えて、情報を公開することにより実施しております。この研究に関するお問い合わせ、研究参加への拒否依頼などがありましたら、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

記

研究機関名	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪母子医療センター
研究課題名	小児集中治療室における痛み、不穏、せん妄評価のカルテ記載率現状調査
研究代表者 氏名・所属部署	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪母子医療センター 藤本 昌吾 看護部 1E
研究対象者 (研究対象者等が自身が対象者であると容易に知り得るように記載)	2018年4月、2018年6月に当センター小児集中治療室(以下PICU)に入室した患者に対し、症状アセスメントツールを使用したPICU看護師約50名です。
研究期間	研究実施許可後～2019年7月
研究目的・方法 (意義、目的、方法、試料等の二次利用等)	<p>2014年に日本集中治療医学会から、J-PADガイドライン(日本版・集中治療室における成人重症患者に対する痛み・不穏・せん妄管理のための臨床ガイドライン)が発表され、重症患者を管理する上での痛み、不穏、せん妄(Pain, Agitation, Delirium)対策の重要性が強調されています。そのため、それぞれの症状に対するアセスメントツールの導入が推奨されています。成人領域ではPADケアバンドルに基づいた看護ケアが標準となりつつありますが、小児領域では浸透していないのが現状です。</p> <p>当センターPICUでは、2018年2月にアセスメントツールを導入しました。原文版SBS(State Behavioral Scale)を鎮静スケールとして、NRS(Numeric Rating Scale)、フェイススケール、FLACCスケール(Face, Legs, Activity, Cry, Consolability スケール)を痛み評価スケールとして、CAPD(Cornel Assessment of Pediatric Delirium)をせん妄評価スケールとして導入しました。</p> <p>しかし、今まで使用したことのないアセスメントツールを導入すると、アセスメントツールの使用とカルテ記載率が不十分であると考え、PICUの看護師に向けて、アセスメントツールの勉強会を行いました。今回、各アセスメントツール導入から勉強会前後でのカルテ記載率の調査を行い、その推移から、導入に向けた問題点を考察します。</p> <p>【データの二次利用】 これらのデータを利用して、将来の別研究への利用、または他機関への提供の可能性はございません。</p>
研究に用いられる試料・情報の項目や種類	2018年4月と6月にICUに入室した患者のSBSのカルテ記載率、2018年4月と6月のCAPDのカルテ記載率、2018年4月と6月のNRS・FLACC・フェイススケールのカルテ記載率の比較を行います。患者氏名を扱いますが、個人情報に留意します。
研究計画書などの研	本研究の研究対象者(等)が、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手または

<p>研究資料の入手方法、または閲覧方法</p>	<p>閲覧をご希望される場合、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護等に支障のない範囲で入手、または閲覧ができます。下記の間合せ先までご連絡ください。</p>
<p>個人情報の開示に係る手続き</p>	<p>本研究の研究対象者(等)から、個人情報の開示の求めがあった場合、保有する個人情報のうちその本人に関するものに限って、地方独立行政法人大阪府立病院機構 個人情報の取扱及び管理に関する規程に基づいて、開示手続きをとりますので、下記の間い合わせ先までご連絡下さい。</p>
<p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先</p>	<p>地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪母子医療センター 看護部 1E 藤本昌吾 電話 0725-56-1220 (代表)</p>